

Victory

NO.11

令和3年1月

宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校図書館

新しい年の幕開けは、コロナ拡大で始まりました。
早い終息を願うばかりです。

一人ひとりのほんの少しの心がけが改めて大切になってくると思われます。

さて、今年の干支は「丑」。決してスピーディではありませんが、一歩一歩踏みしめながら前進する姿は、コツコツと努力する人を想像します。

図書館の今年の抱負は…、
「未知の我を求める」みなさんに寄り添う図書館でありたいと思います。どうぞよろしくお願いします。



長期休業中に借りた本の返却は済ませましたか？
まだの人は早めに返却を。
新しい本も入ってきます。
読書でたっぷり充電しましょう。



***高3生の返却完了日は1/29(金)です！**

図書館で絵馬を書こう！



図書館では、季節ごとの行事や文化を感じてもらえるような仕掛けを考えています。

今回は、「絵馬」です。みなさんの中には、願い事が成就するように神社で書いたことがある人もいるかと思います。

そこで、今回神社に行けなかったあなた！西高・西附図書館に来れば、「絵馬」が書けます！2月も継続するのでぜひどうぞ。



*絵馬のポスター制作者
生徒会図書委員長

1年 日高恒顕くん

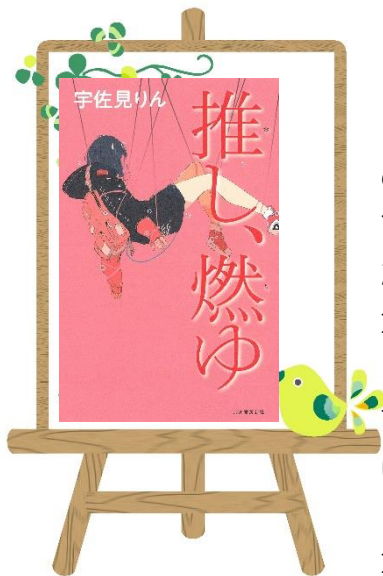
*「大願成就」の制作者
書道部 2年 上岡愛海留さん

ありがとう！！



第164回芥川賞・直木賞受賞作 決定！

1月19日（火）に受賞作品が決定しました。著者のこれまでの作品と受賞作（受賞作は準備中）をコーナー展示しています。



芥川賞『推し、燃ゆ』（河出書房新社）

「推しが燃えた。」から始まるこの小説。16歳の主人公あかりの日常は、推しを推すことで成立している。あかりにとって推しは彼女の「背骨」なのだ。その推しが、ファンを殴ったことでSNSは大炎上し…。生きづらさを感じる今、生まれるべくして生まれた作品だ。そして、デジタルネイティブ世代の使う言葉がこの一冊で理解できる。この作品は時代と時代の懸け橋となる新しい一冊だ。

著者の宇佐美りんさんは、文学部を専攻する現役大学生。第1作目「かか」は第56回文藝賞受賞。

直木賞『心淋し川』^{うら}（集英社）

江戸の心町（うらまち）が舞台の時代小説。心町を流れる心淋し川は、小さく、淀んだ川。その川の淀みは、川下に住む長屋の住人たちがそれぞれに抱える悩みのように。それは時空を超えて現代の私たちの心の淀みともつながる。

心に染み入る小説だ。

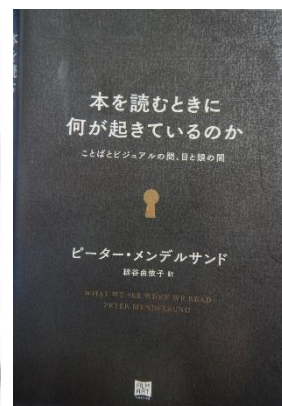
著者の作り出す世界は、時代小説から現代小説、ファンタジー、SFと幅広い。他の作品も一読あれ。



棚からひとつかみ『読むときに何が起きてるかって？ふむ、考えてみよう。』

著者は装幀家で、数多くのブックデザインを手掛けています。本書内にも多くの装幀が手掛けられていますが、そのビジュアルな世界はあまりに印象深く、読者は考えざるを得ない境地に立たされます。一回読んでおしまいにしたくないおもしろい一冊！

『本を読むときに何が起きているのか：ことばとビジュアルの間、目と頭の間』ピーター・メンデルサンド著
(フィルムアート社) 019×



いきなりこんなことを言われてもふだん私たちは読むときに意識などしない。けれども、そういわれて改めて分析してみると、実に面白い。私たちは自らの経験によって、作者が作り出す物語世界を形作る。いわば共同制作者であることに気づかされる。そして、どれ一つとして同じ物語世界はないことにも。



扉を開こう。新たな世界が君を待っている。

のんびり、ほんやり、ほんわかしませんか？

一呼吸する時間を作っていますか？

図書館は、『癒しの場』という大切な役割も担っています。

ただいだけでよい場です。どうぞ、お待ちしております。

